



遅延の無い音をスピーカーから出す

Trinnov Optimizer は、音響最適化のためのプロセッシングを行っており、少なくとも約20msの遅延が発生します。

MC, DMon, ST2-Pro の Trinnov Optimizer は、Bypass 機能を使用することでこの遅延を回避できますが、v1.0.24 以前のソフトウェアで動作する NOVA には、その機能が備わっていません。

そのため、NOVA で遅延の無い音をモニターするためには、一時的に 遅延の無い Direct Output を Speaker Output に使用することで実現することができます。

Optimizer ON で遅延のある Preset と Optimizer が入っていない Direct Output を Speaker Output に使用した状態の Preset を切り替えて使用することで、オーバーダブなどのセッションを行うことができます。

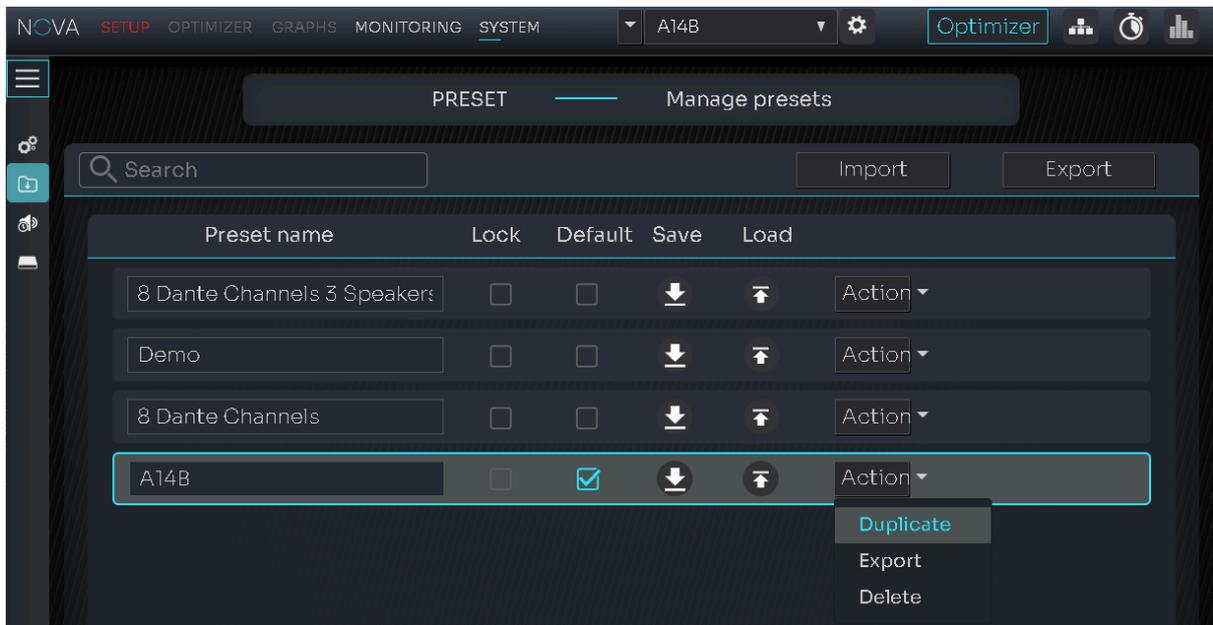
ただし、この方法では 遅延の無い状態ではスピーカーの音量調整ができないため、NOVA へ音を送る機器 (DAWなど) で音量を調整する必要があります。

この状態を作り出すためには、以下の手順で行ってください。

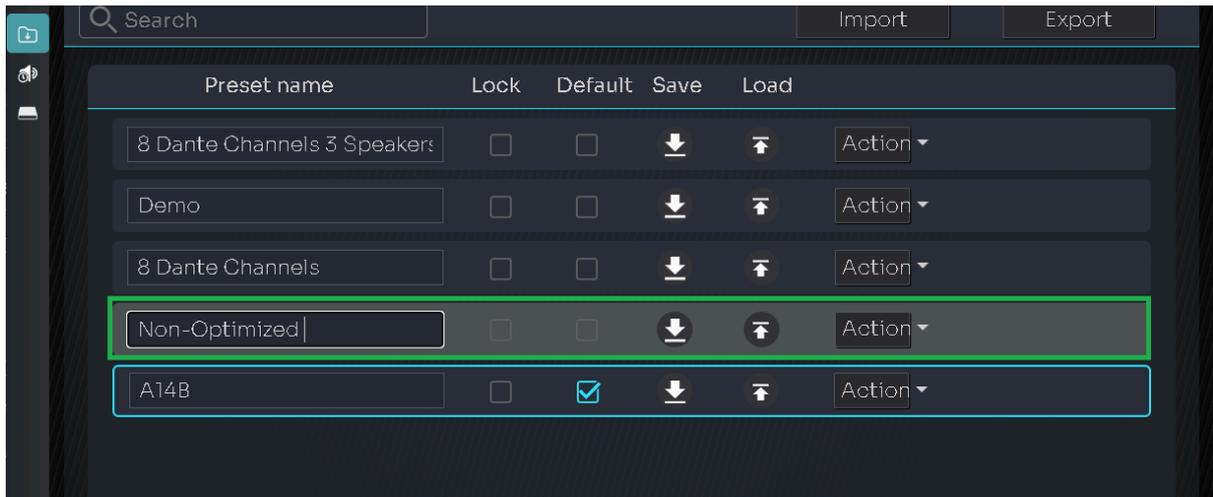
1. 現在の **Preset** のコピーを作成する
2. 作成した **Preset** の **Speaker Output** の割り当てを **None** にする
3. 作成した **Preset** に **Direct Output** を作成する
4. **Direct Outputs** スピーカーへ出力している出力端子をアサインする
5. この **Preset** を保存する

1. Preset のコピーを作成する

1. **SYSTEM > PRESET** を開きます。
2. 現在使用している Preset の Action の中から **Duplicate** を選択します。

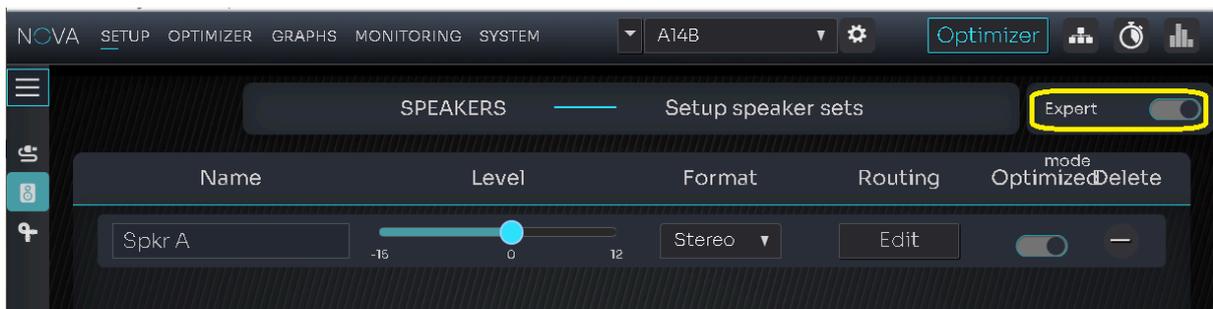


これで現在使用している Preset の Copy が作成されます。適当な名前に書き換えてください。

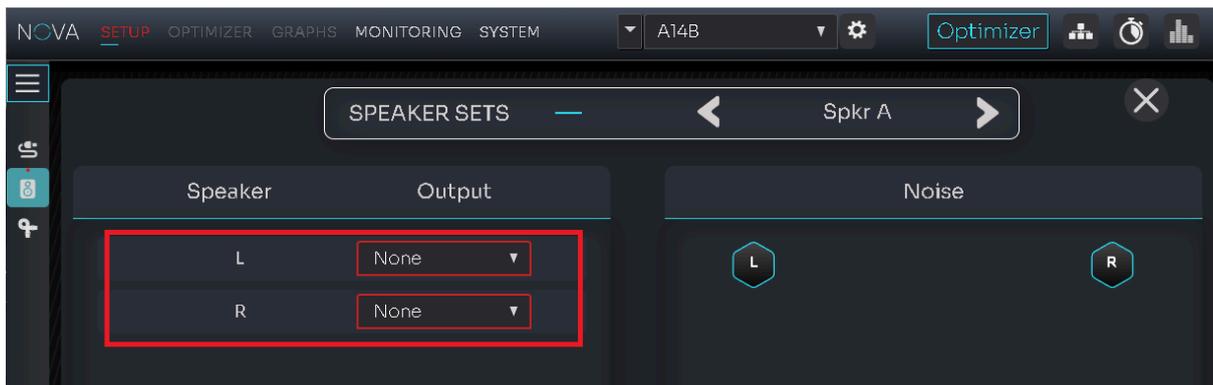


2. Speaker Output の割り当てを None にする

3. **SETUP > Configure > Speaker** を開きます。
4. **Expert mode** に入ります。



5. **Edit** をクリックします。
6. **Output** を **None** に変更します。

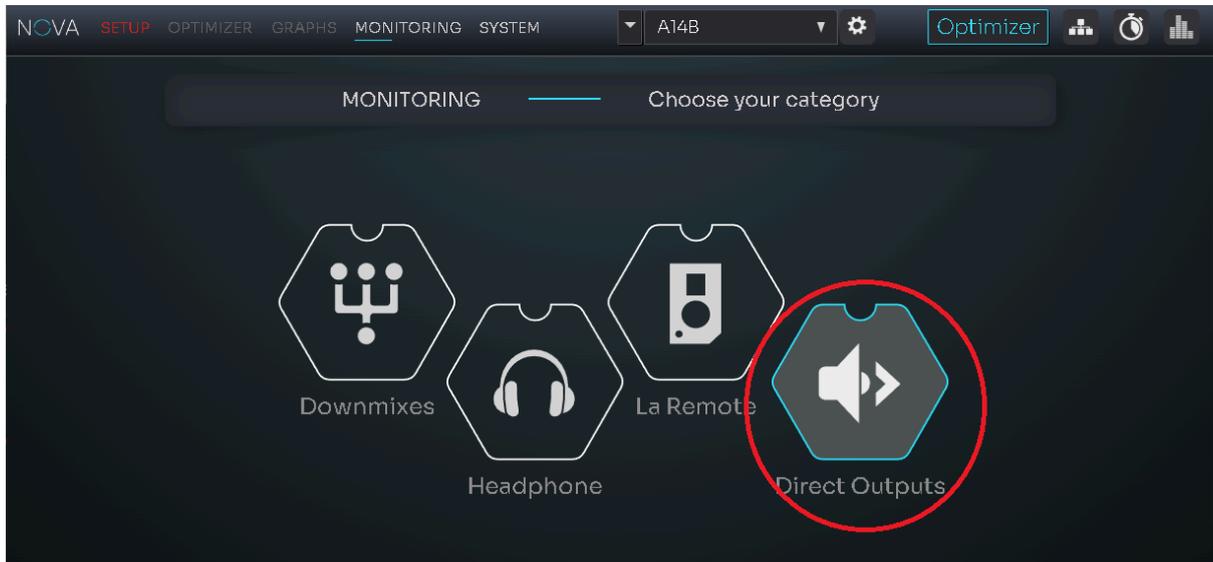


これで Speaker Output の物理端子がフリーになりました。

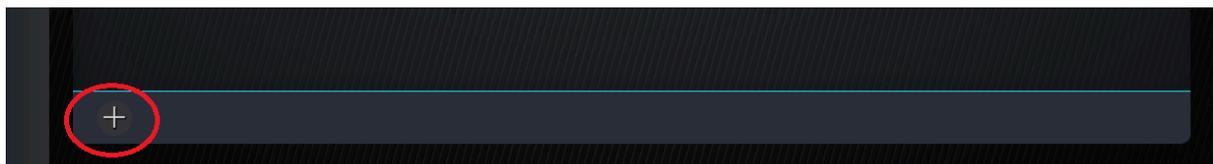


3. Direct Output を作成する

7. **MONITORING** > **Direct Outputs** をクリックして開きます。

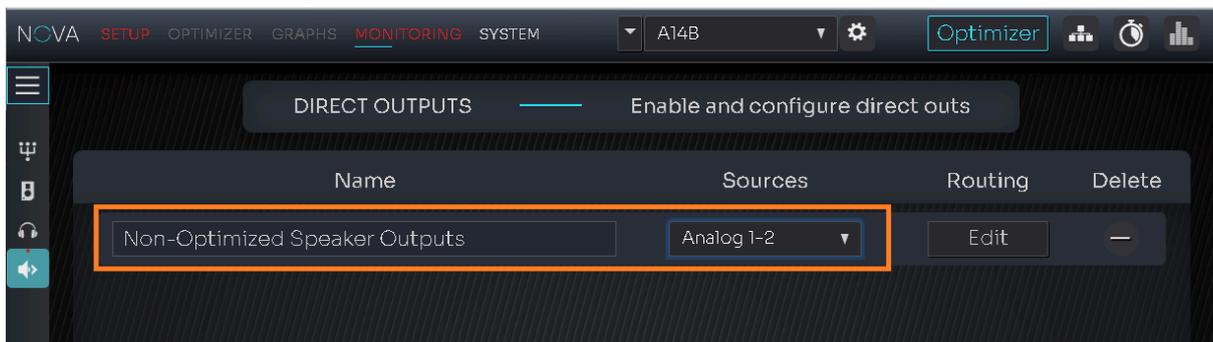


8. 左下にある + をクリックして新しい Direct Outputs を作成します。



9. 新しく作成した Direct Out の Name に適当な名前を入力します(この例では “Non-Optimized Speaker Outputs”)

10. **Source** を **Analog 1-2** に設定します。

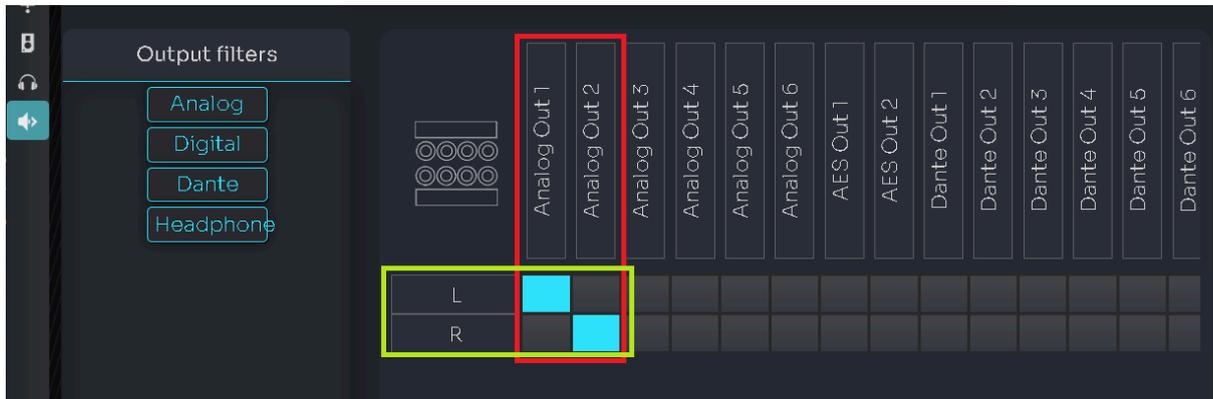


この Sources は、NOVA へ出力している機器が接続されている物理端子を指します。他の入力を使用している場合は、その入力を設定してください。



4. Direct Outputs スピーカーへ出力している出力端子をアサインする

11. Edit をクリックし、L と R の出力をそれぞれ *Analog Out 1* と *2* にアサインします。

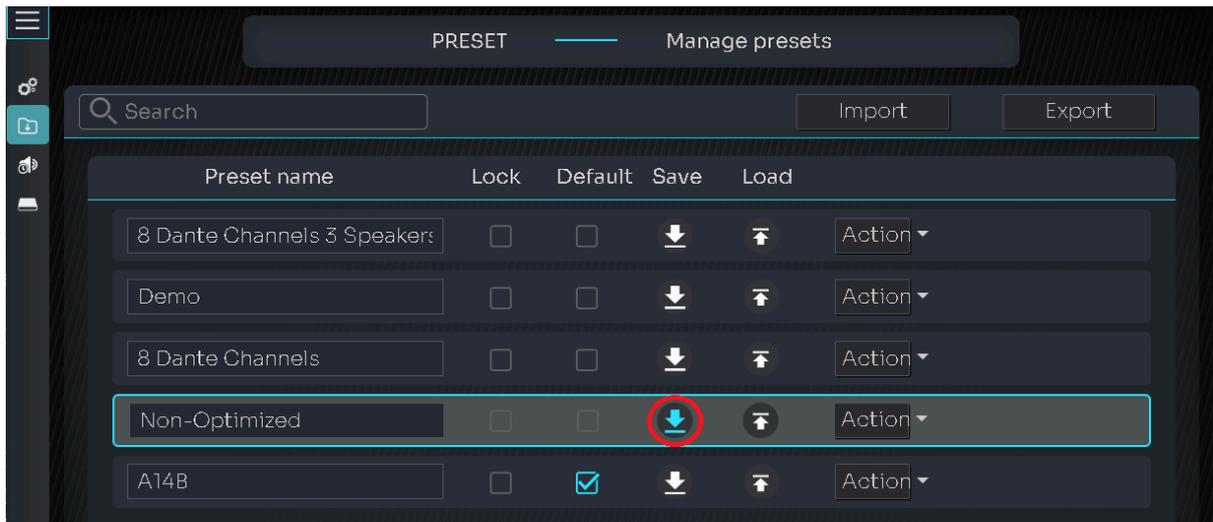


12. 右上にある X をクリックして閉じます。

6. Preset を保存する

13. *SYSTEMS > PRESET* を開きます。

14. 作成した Preset の **Save** をクリックし、変更を保存します。



以上で設定は終了です。

- 遅延の無い音を聴きたい場合は、この Preset を使用してください。

ただし、音量の調整や **Source** の切り替えはできませんので、注意してください。